

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果のお知らせ  
大月市内小中学校の状況について

大月市教育委員会

5月27日に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。調査結果を分析しましたのでお知らせします。

本調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。この調査は小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されました。

内容は教科に関する調査（国語と算数・数学）と質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）です。

市内小中学校では、自校の結果を分析し、指導方法の改善等を行っています。更に調査を受けた児童生徒とその保護者の皆様には、個々の良いところや課題点、努力点等を説明し、今後の学力向上に向けて家庭との連携を図るよう努めています。



## 1 教科に関する調査（国語と算数・数学）について

### （1）全体の結果と状況

	市内小学校の平均正答率	市内中学校の平均正答率
国語	県とほぼ同等	県とほぼ同等
算数 数学	県とほぼ同等	県とほぼ同等

※ 「県平均とほぼ同等」という根拠 …… 文部科学省では、平均正答率との差±5%を微差とし、「±5%は、ほぼ同等を意味する」としているのので、それに従って表記しています。

《 小学校 国語 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

○思考に関わる語句の使い方を理解し、適切なものを選択する問題はできている。

○スピーチ文の練習で使用した資料の目的を理解する問題はできている。

●目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。

●目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに課題がある。

●文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることに課題がある。

《 小学校 算数 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

○棒グラフから数量や項目間の関係を読み取ることはできている。

○条件に合う時刻を求めることはできている。

○示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することはできている。

●三角形の面積の求め方に課題がある。

- 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素等に着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述することに課題がある。
- 商が、1より小さくなるわり算（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて式に表し、計算することに課題がある。

《 中学校 国語 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

- 話し合いでの発言者の質問の意図を選択することはできている。
- 文脈に即して漢字を正しく読むことはできている。
- 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことに課題がある。
- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題がある。
- 相手や場に応じて敬語を適切に使うことに課題がある。

《 中学校 数学 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることはできている。
- 柱状グラフから、ある階級の度数を読み取ることはできている。
- 与えられたデータから中央値を求めることはできている。
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
- 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することに課題がある。
- ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することに課題がある。



選択式や短答式の問題に比べて記述式の問題において、小学校6年生と中学校3年生は、苦手傾向があり、また無回答率が高い傾向があります。（これは県内・全国的にも同様の傾向です）

無回答率が高かったのは、小学校国語では「漢字を文の中で正しく使う」「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題です。小学校算数では「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述」する問題です。また、「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する」問題です。中学校国語では「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」問題です。中学校数学では「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する」「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」問題です。

また、「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する」問題です。中学校国語では「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」問題です。中学校数学では「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する」「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」問題です。

## （2）今後の取組

低学年から図鑑や本に親しみ、新聞等の図や表を比べて自身の意見を持ち、発信する活動を行うことが大切です。算数・数学においても式・表・グラフ等を書くことだけでなく、口頭で説明する対話的な授業、文字で書き表す活動をより多く授業の中で行っていくことが大切です。

各校ともに、学習の系統性を考え、より上学年への学習内容のつながりを意識したり、子どもが主体的に考え、話し合うことを中心に据え自力解決の時間を確保したり、ペア学習や小グループでの話し合いを重視したり、課題解決学習をより多く取り入れたり等の授業改善を行っています。「朝学習」として基礎的・基本的内容を繰り返し学習する（読書の時間等も含まれている）時間を設定していたりしますが、その充実をなお一層図っていく必要があります。全般的に文章の読解力向上が課題となっています。県教委で作成した資料等の活用も進めていきたいところです。



市内小中学校では、それぞれの課題を克服するための独自の取組があります。各校が自ら策定した指導方法改善策に基づき、子ども一人一人を大切に、きめ細かな指導を実現しようと努力しています。

## 2 質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）について

### （1）全体の結果と状況

児童・生徒に対する質問は69項目になりますが、主な項目について報告いたします。表の数値は、選択肢のうち「そう思う」「どちらかといえばそう思う」といった肯定的な回答を割合（％）として示しました。

#### 《 主体的・対話的で深い学び 》

(1) 5年生（1、2年生）までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。		市	県	差
	小	78.9	85.1	-6.2
	中	83.9	87.9	-4.0

(2) 5年生（1、2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立て等を工夫して発表していましたか。		市	県	差
	小	76.6	68.9	+7.7
	中	56.8	67.9	-11.1

(3) 5年生（1、2年生）までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいましたか。		市	県	差
	小	81.3	82.4	-1.1
	中	83.3	85.0	-1.7

(4) 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。		市	県	差
	小	80.5	83.9	-3.4
	中	79.4	79.4	±0

(1)については小・中ともに全国平均と同等です。(2)については中は全国平均と同等です。本市の子どもたちの多くが意欲的に学習に取り組む姿がうかがえます。

しかし、「自分の考えをしっかりと伝える」「工夫して発表する」ことに課題が見られ、授業はもちろん、朝の会等でも機会を多くし経験させていくことが大切です。小中学校の新学習指導要領で示されている「課題解決のために必要な情報を集める」「目的や意図に応じて内容を整理し把握する」「理由を明確にして、論理的に分かりやすく説明する」「知っていることやできることを他に転化させて使いながら、自分の考えを広げ深め、話し合い等の共同作業を行うことで、最適解を求める」等の力をなお高めていくことが求められています。

《 いじめ 》

(5) いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。		市	県	差
	小	97.6	97.8	-0.2
	中	94.8	97.4	-2.6

いじめはどんな理由があってもいけないという肯定的回答がほとんどです。県平均とほぼ同等です。これまでの学校・家庭・地域の意図的・計画的な指導ばかりでなく、日常のあらゆる場所であらゆる機会をとらえて、あらゆる人々が、あらゆる形で指導してきた賜物だと思います。ただ、「いじめ」を肯定している児童生徒が若干名いることから、今後もこのことの指導を丹念にきちんと、そして速やかに行うことを続けていく必要があります。



《 自尊感情・自己肯定感 》

(6) 自分には、よいところがあると思いますか。		市	県	差
	小	83.6	80.0	+3.6
	中	74.2	80.8	-6.6

(7) 将来の夢や目標をもっていますか。		市	県	差
	小	88.3	83.6	+4.7
	中	74.2	72.8	+1.4

(8) 学校に行くのは楽しいと思いますか。		市	県	差
	小	78.9	86.2	-7.3
	中	77.4	82.8	-5.4

自尊感情・自己肯定感にかかわる意識調査を見ると、小学生の方が中学生に比べ肯定的な回答が多いことがわかります。(6)については中は全国平均と同等です。(8)については小・中ともに全国平均と同等です。



自尊感情や自己肯定感をもつことは、自信につながり、安定した生活を送ったり学習への意欲をもったりするためには、不可欠のことです。これからの社会においては、個々の存在を認め合い、支え合うと同時に、周囲と良好な人間関係を構築することが求められています。中学3年生は、思春期を迎えるとともに中学卒業後の進路選択も控えており不安定な時期であることが予想されます。日頃の授業や行事等の特別活動等、学校生活の全体で、中学生の自尊感情を高める指導をさらに意識して行っていく必要があります。さまざまな場面で自信をもたせ、素直に夢や目標をもつことができ、それを応援してくれる家庭・学校・地域の安定した教育環境

づくりが、なお必要になっていると言えます。

文部科学省では「コロナ感染拡大の影響により、給食中も会話ができない等、学校の楽しみが制限されていることが要因の一つではないか」としていますが、前回の集団とは違うこと、また他の要因も考えられることから今後検討していきたいと思います。

《 生活習慣・学習習慣 》

(9) 朝食を毎日食べていますか。		市	県	差
	小	99.2	96.9	+2.3
	中	96.1	93.9	+2.2

(10) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。		市	県	差
	小	80.5	85.7	-5.2
	中	81.3	82.6	-1.3

(11) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。		市	県	差
	小	89.8	93.6	-3.8
	中	92.9	94.1	-1.2

「朝食の喫食」「就寝時刻」「起床時刻」については基本的な生活習慣の中心です。小学校6年生と中学校3年生は、ほぼ生活リズムが確立され、良好な状況といえます。この傾向は、この調査においては長年継続していて、本市の子どもたちの良さであり、大きく崩れないところです。朝食をとることと学力には相関関係があることがいわれています。学力向上のための前提条件としてこれからも、朝食を食べる割合を高い水準で維持したいところです。就寝時刻については県と同様に不規則な様子もうかがえますが、起床時刻については規則正しい生活をしている児童生徒が多いことが分かります。成長期の子どもたちですので、十分に良質な睡眠が確保されることを望んでいます。





(12) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか。（塾・家庭教師等を含む）		市	県	差
	小（1時間以上）	57.1	67.2	-10.1
	中（2時間以上）	45.8	38.8	+7.0

(12) については小は全国平均と同等です。月～金曜日の1日の勉強時間では、小学校6年生は「1時間～2時間」の勉強時間が最も多くなっていて、この傾向は県や全国と同様です。小学生で1時間以上勉強している割合は県平均を下回っています。中学生で2時間以上勉強している割合はほぼ半数近くになります。

(13) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（教科書や参考書・漫画や雑誌は除く）		市	県	差
	小中（30分以上）	38.3	43.1	-4.8
		30.3	32.6	-2.3

各学校では「朝の読書」等で全校的に読書活動に取り組んでいます。読書習慣は一生の財産となるので、読書意欲を高め、習慣づける取組をさらに進める必要があります。

(14) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含む）		市	県	差
	小	76.6	79	-2.4
	中	80	69.1	+10.9

ここ数年取り組んでいる県及び本市の「家庭学習推進」の成果の表れがある程度見受けられますが、なお子どもたちの学力を定着させるためには、集中して机に向かう時間の長さの確保と質の向上を図る必要があります。

(15) 新聞を読んでいますか。（小中 週に1回から3回程度以上）		市	県	差
	小	14.0	16.2	-2.2
	中	11.0	11.3	-0.3

文部科学省から、「新聞を読む頻度が高い子どもの方が、平均正答率は高い」という結果が毎年報告されています。新聞は、読解力、情報収集力、分析力、説明力、思考力、表現力等を培うのに格好の素材であり、今後工夫を加え、学力向上のための良い教材としていく必要があります。



#### 《 ICT を活用した学習 》

(16) 5年生まで（中1・2年生まで）に受けた授業で、コンピュータ等のICT機器をどの程度使用しましたか。（小中 週1回以上）		市	県	差
	小	60.1	35.0	+25.1
	中	14.8	25.0	-10.2

令和元年度調査では（小・31.2%、中・6.2%であり、使用頻度が2年間で2倍になったことがわかります。大月市では各小中学校に於いて昨年の11月から電子黒板、書画カメラ、今年の4月から一人一台タブレット端末、Wi-Fi等の環境整備が順次行われており、授業で活用されています。令和3年度は、より各校での使用頻度が高くなっていると考えられます。学校では効果的な場面を工夫し、より活用する機会を増やしていきたいと思えます。

《 新型コロナウイルス感染症の影響 》

(17) 新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。		市	県	差
	小	50.0	59.6	-9.6
	中	72.2	66.3	+5.9

(18) 新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか。		市	県	差
	小	71.1	70.1	+1.0
	中	32.9	39.9	-7.0

(17) については小は全国平均と同等です。(18) については中は全国平均と同等です。小学生より中学生の方が休校期間中の勉強について不安を感じていたことがうかがわれます。



各学校では休校中に教科書に基づく学習内容の指示、学校が作成したプリント等を配布して学習の不安の軽減に努めました。今後、休校措置が行われることも想定し、児童生徒が不安にならず、学習を計画的に進める事ができるようにコンピュータ等の ICT 機器の活用も行っていくことを考えていきます。

(2) 今後の取組

本市は調査対象の児童生徒数が少ないため、検査の結果はその時々学年の子どもたちが歩んできた歴史、作ってきた人間関係や雰囲気等の学習環境を反映しやすいところがあります。

生活状況では、「朝食の喫食」「就寝時刻」「起床時刻」という基本的な生活習慣は、ほぼ県と同等で、良好な状況と言えます。「いじめはどんな理由があってもいけないこと」としている割合は県とほぼ同じです。学校における望ましい人間関係の構築といった面で本市の児童生徒は健全であることが分かります。「将来の夢や目標をもつ」と回答した割合も県よりも高くなっています。本市の子どもたちの良い点を家庭でも学校でも賞揚し、さらにその「良さ」の伸長を図っていきましょう。

学習習慣についてですが、ここ数年、県の施策を受け、本市で家庭学習の充実を図ってきた成果がうかがえます。市内小中学校では、家庭学習の充実を図るために、「家庭学習システム」を決めたり、「生活記録表」「生活記録カード」「家庭学習の手引」や「家庭学習チェックシート」を活用したり、各自が自分の能力に合わせて家庭学習を行い、学年が進行するにしたがって自主的な学習に移行できるように工夫したり、「自主学習ノート」「家庭学習ノート」に取り組ませたりしています。さらに、本市では4年前より教育活動の支援の一つとして「チャレンジ大月っ子」の取組を進めて学力の向上を図っています。また「家庭学習」だけでなく「家事労働」にも取り組むことで、「自己有用感」の醸成とともに生きた知識を学ぶことができることに取り組んでいます。引き続き健全な子どもたちの育成のため、各家庭でも各学校の取組に御協力ください。



### 3 大月市教育委員会事業との関わりについて

令和3年度の大月市学校教育指導重点に於ける教育理念は「夢に向かい 共に学び 共に生きる」となっています。重点目標として「ふるさと教育」の推進等、また重点方針を「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健康・安全に関する資質や能力の育成」としています。

「ふるさと教育」については、子どもたちと大人たちが共に学ぶことを通して地域ぐるみで豊かな未来を創ること、子どもたちに地域のことに今もこれからもかかわっていかうとする「当事者意識」を培い、生まれ育ったふるさと大月を次の世代にきちんと引き継いでいく責任を果たそうとする心を育てていきたいと思っています。

今年度も夏休みを利用した学習支援（基礎学力の定着と学習意欲の向上）の場として学校単位で5日間の「大月市サマースクール」を開催して学力の補充をしています。各校において多くの子どもたちが、学力向上に向け真剣に、意欲的に学習する姿が見られました。

また、「大月っ子楽習サロン」を平日の放課後に実施し、日頃の学習課題に対応する取組が続けられています。これらの取組や、まだまだ改善の余地がある家庭学習の確立と充実に向けての取組を、各学校に引き続き働きかけて、本市の子どもたちの学力の向上を継続的に図り、学ぶ楽しさや分かる喜びを味わうことができる子どもたちを増やしていきたいと考えています。

各校で行っている「学力向上」を市内小中学校で共有できるように、各校の支援をしていきたいと考えています。これからも、本市の子どもたちのよりよい成長のために、保護者及び地域住民の皆様から忌憚のない御意見をいただき、また温かく支えてくださいますようお願い申し上げます。

